

陸稲新品種「ハタフサモチ」について

目黒 猛夫*・小野 敏忠・岡野 博文

野村 馨・阿部 祥治・石原 正敏

I はしがき

陸稲栽培には数々の災害があって一般に豊凶の差が大きいが、早期栽培はこれらの災害、特に早害や台風害を回避するために各地で注目され、とりわけ九州地方では従来の栽培法は減少して安定した陸稲の早期栽培が普及してきた。しかし収量性や倒伏性などからみて、早期栽培に適する品種が少ないためにその効果は完全に発揮できなかった。ここに育成された「ハタフサモチ」は、南九州地方において早期栽培を行なった場合に従来の品種より良質で高い適応性をもち、また関東地方平坦部の普通栽培では中生種として耕地の利用上に好適の糯品種である。

「ハタフサモチ」は昭和39年に育成されたもので、

「陸稲農林糯43号」に登録され、同年より鹿児島県で奨励品種として普及にうつされた品種である。本品種の育成経過やその特性などについて報告する。

II 育種目標および育成経過

関東地方の代表的糯品種は「農林糯26号」で、やや長稈のため倒伏に難点がある。またこの品種の作付率はきわめて高く、作業時期が重なる不便があった。一方これらの品種の出穂期は8月20日頃で、この時期は早ばつの最も発生しやすい時期であるために、これよりやや早い品種が早害の回避の上から望ましく、その関係で中生の強稈糯品種の育成が各地で望まれていた。

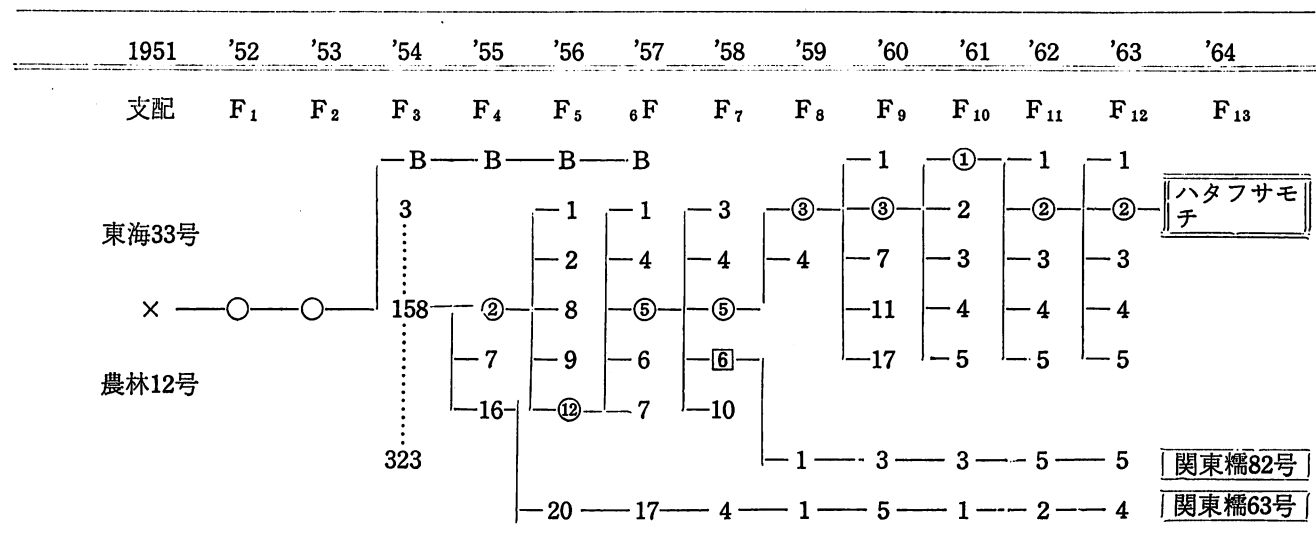
育成の経過は第1表および第1図に示すとおりで、新品種は系統育種法により育成された。

第1表 選 抜 経 過 表

年次	世代	供 試 数				選 抜 数			配 布 数			備 考
		個体	派生系統	系統群	系統	個体	系統群	系統	特検	系適	原決	
1951	支配	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1952	F ₁	8	—	—	—	8	—	—	—	—	—	
1953	F ₂	1483	—	—	—	143	—	—	—	—	—	
1954	F ₃	—	—	—	143	—	—	36	—	—	—	
1955	F ₄	—	26	10	78	—	19	30	—	—	—	
1956	F ₅	—	12	18	103	—	17	29	—	—	—	
1957	F ₆	—	—	33	98	—	11	16	3	6	—	石系49号命名
1958	F ₇	—	—	16	55	—	7	12	3	5	—	
1959	F ₈	—	11	12	21	—	4	7	3	4	—	
1960	F ₉	—	—	7	27	—	4	4	3	—	13	関東糯64号命名
1961	F ₁₀	—	—	4	20	—	3	3	3	—	13	
1962	F ₁₁	—	—	3	15	—	3	3	2	—	8	
1963	F ₁₂	—	—	3	15	—	3	3	2	—	5	
1964	F ₁₃	—	—	3	15	—	3	3	2	—	8	ハタフサモチ命名

* 現神奈川県農業試験場研究部長

第1図 育成経過図



支配 (1951) : 茨城県農業試験場石岡試験地で「東海33号」(後のオワリハタモチ)を母とし、「農林12号」を父として人工交配を行なった。

F₁ (1952) : 8個体を養成した。ヘテロシスは稈長に大きく現われ、稈先色は両親より濃い濃紫色を示した。

F₂ (1953) : 1483個体を養成した。熟期は中～中晩生の個体が多く、白葉枯病の発生がやや多かった。360個体を圃場選抜し、室内選抜で143個体を残したが、その内糯個体は31、糯粳分離個体は74、その他は粳個体で、中生の熟期の個体はできるだけ多く残された。「ハタフサモチ」は糯粳分離個体から育成された。

F₃ (1954) : この組合せは中生の系統が多く、「農林12号」に似たやや短稈で稈実の良好な系統が多かった。このうちから中生、中稈、耐病性で選抜し、新品種となった系統は糯と粳とに分離していた。

F₄ (1955) : この組合せは中～中晩生系統が多く、一般に穂数が多い。耐病性と耐旱性は十分でないが、「農林12号」に似て強稈で多収性の糯品種を育成しうる期待が持てた。そのなかから熟期は中生の早、強稈、耐病、耐旱の目標で選抜して新品種となった系統は、糯粳性では分離していたが、室内選抜によって糯のみに選抜された。

F₅ (1956) : 固定度は進んだが、稈先色はやや分離していた。この世代は地力の不良圃場で養成したが、瘠地適応性があるように感じられた。

F₆ (1957) : 「石系49号」と命名、中生で中稈中けつ、やや強稈で、穂型は「オワリハタモチ」に似て良い。多収・良質で白葉枯病に強いが、いもち病には「農林糯26

号」よりやや劣るようである。耐旱性は強く、固定度は進み有望。

F₇ (1958) : 中生やや短稈、強稈、中けつ、穂はやや小さいが、稈実・熟色ともに良好で多収、瘠地適応性も高く有望。

F₈ (1959) : 中生の早で、中稈、中けつ、強稈、有望。

F₉ (1960) : 関東糯64号と命名、熟期早く、やや多けつ、中稈、中穂、粒着やや密、耐病性強、熟色極めて良好、多収型、有望。

F₁₀ (1961) : 中生、中稈、強稈、熟色良好、カラバエにやや弱いが多収。

F₁₁ (1962) : 中生、中稈、やや多けつ、粒着やや密、耐旱・耐病性共に強、有望。

F₁₂ (1963) : 中生、やや短稈、生育量多く多収型、有望。

F₁₃ (1964) : 「ハタフサモチ」と命名され、「陸稲農林糯43号」として登録される。

III 特性の概要

(1) 形態的特性

幼苗期ではやや伸長型であるが、成熟期では「農林糯26号」よりやや短稈で、中間型の品種である。稈質はやや剛で、草型は「オワリハタモチ」に近い型である。特性の概要は第2表に示したように、芒は稀の短、稈先色は白である。脱粒性は「農林糯1号」程度の中、玄米の大きさは中で、品質は「農林糯1号」よりやや良好である。

陸稲新品種「ハタフサモチ」について

第2表 特性調査成績

(石岡)

品 種 名	稈の細太	稈の剛柔	芒の多少	芒の長短	芒 又 は 稈 先 色	稈 色	粒着粗密	脱粒難易	玄米形状	玄米大小	粳糯の別
ハタフサモチ	中	剛~ ヤヤ剛	稀	短	白	白	密~ ヤヤ密	中	中	中	糯
農林糯26号	中	ヤヤ剛	稀	短	白	白	ヤヤ密	難	中	中	糯
農林糯1号	中	ヤヤ剛	少	短	白	白	中	中	中	中	糯
ハタコガネモチ	中	ヤヤ剛	稀	短	白	白	ヤヤ密	難	中	中	糯

(2) 生態的特性

出穂期は「農林糯26号」より4~5日早い関東地方の中生種であるが、九州地方の早期栽培では「農林21号」と同じかやや早い晩生種となる。いもち病耐病性は葉、首ともにかなり強い。耐旱性は極深根性ではないが生理的には強く、出穂期の早いことにより早ばつを回避し早ばつ年次でも安定した収量をあげる。強稈で倒伏には強

いが、中生種であるから多肥条件下では肥料の吸収量は中晩生種より相対的に多くなりやすく、紋枯病の発生を伴って倒伏することがあるが、糯種の中では倒伏し難い品種である。精歩合は高く、熟色は良好で、中生種にもかわらず中晩生種と同程度かそれ以上の多収性を示している。

第3表 生育調査成績

(石岡)

品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	病 中 害						旱害	倒伏	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
			葉いもち病	首いもち病	紋枯病	ごま葉枯病	白葉枯病	カラバエ					
ハタフサモチ	8.21	10.1	ム~ビ	ム	少	ム~少	ビ	ビ~少	少	少	71.4	19.6	216
農林糯26号	8.25	10.6	ム	ムビ	ビ少	ム~少	少	少	中	少中	72.9	20.8	216
農林糯1号	8.26	10.5	ビ	ムビ	ビ少	ム~少	ビ	少~中	中~多	中~多	79.7	22.2	204
ハタコガネモチ	8.24	10.5	ム	ムビ	少	ム~少	ビ	少	中	中~多	73.0	20.2	224

注 1956~1963年8ヶ年平均

第4表 収量及び品質調査成績

(石岡)

品 種 名	a当り葉重 (kg)	精歩合 (%)	a当り精歩重 (kg)	a当り玄米重 (kg)	同左率 (%)	精歩合 (%)	玄米重 (g)	玄米干粒重 (g)	玄米品質	判定
ハタフサモチ	46.2	36.6	29.2	21.6	124	74.6	768	19.0	中上	◎
農林糯26号	50.8	29.6	22.6	17.4	100	77.0	770	19.2	中上	—
農林糯1号	49.8	30.6	23.8	18.4	112	77.4	768	18.8	中下	—
ハタコガネモチ	49.2	34.3	26.4	21.0	122	79.5	769	17.7	中中	—

注 1956~1963年8ヶ年平均

(3) 耐病虫性
 いもち病耐病性は第5表に示したように「農林糯26号」程度の耐病性を持ち、陸稲品種のなかでは強に属する。

白葉枯病耐病性は観察の結果からかなり強いものと考えられるが、カラバエ耐虫性はあまり強くなく、陸稲品種の中では中程度の耐虫性を示すことが認められた。

第5表 いもち病耐病性検定試験成績

区別	品 種 名	試 験 年 次							
		1956	'57	'58	'59	'60	'61	'62	'63
葉 い もち 病	ハタフサモチ	弱	やや強	やや強	強	中	強	強	強
	農林糯26号	強	強	強	極強	極強	強	極強	強
	農林糯1号	やや弱	中	やや強	強	極強	やや強	強	やや強
	ハタコガネモチ	やや強	強	極強	—	極強	強	極強	強
穂 い もち 病	ハタフサモチ	弱	極強	強	やや強	やや強	やや強	強	強
	農林糯26号	極強	強	やや強	強	極強	やや強	強	強
	農林糯1号	やや強	極強	中	やや強	強	やや強	強	やや強
	ハタコガネモチ	極強	極強	中	—	やや強	やや強	やや強	強

(4) 耐旱性
 耐旱性については第6表に示すように、極深根性では

ないようであるが、現地試験などの結果から「農林糯26号」と同程度の強の部に属すると考えられる。

第6表 耐旱性検定試験成績

区別	品 種 名	試 験 年 次						
		1956	'58	'59	'60	'61	'62	'63
現 地 試 験	ハタフサモチ	やや強	やや弱	強	強	強	やや強	中
	農林糯26号	やや強	強	強	強	強	強	中
	農林糯1号	—	中	中	やや強	中	強	弱
	ハタコガネモチ	—	やや強	—	強	—	強	中強
幼 苗 草 型	ハタフサモチ	—	—	M	EM	E	E	E
	農林糯26号	—	—	D	D	D	D	D
	農林糯1号	—	—	M	E	M	EM	EM
	ハタコガネモチ	—	—	D	M	D	DM	DM
ガ ラ ス 室	ハタフサモチ	—	中	やや強	やや強	中	—	—
	農林糯26号	—	中	—	やや強	中	—	—
	農林糯1号	—	—	中	やや弱	強	—	—
	ハタコガネモチ	—	—	—	中	強	—	—

注 E……伸長型で一般に浅根性
 D……矮性型で一般に深根性

陸稲新品種「ハタフサモチ」について

第8表 搗精歩合及び食味試験成績

品 種 名	搗精歩合 (%)	餅 質					
		光 沢	腰の強さ	くずれ方	うまみ	総 合	順 位
ハタフサモチ	79.0	7	10	10	8	8	2
農林糯26号	78.3	8	8	9	8	8	3
農林糯1号	79.3	7	8	9	8	8	4
ハタコガネモチ	79.0	10	10	10	10	10	1

注 10が良好

(5) 穂発芽性

第7表に示すように穂発芽性は陸稲品種のなかでは発芽しがたい。

(6) 品質および食味

玄米品質は外観判定からは「農林糯1号」より優り、搗精歩合も第8表に示されるようにならかなり高い。餅質は

腰が強く良好であり、食味も「ハタコガネモチ」にはやや劣るようであるが、「農林糯1号」、「農林糯26号」等より優り良好である。

(7) 収量性

第4表に示したように当場の8ヶ年間の平均収量は、中晩生の「農林糯26号」より24%の増収を示しており、しかも早ばつ年次においても他の比較品種より安定した収量をあげている。これらのことから、この新品種の収量性はかなり高く、耐旱性の強いことがうかがわれる。これは本品種の熟期がやや早いために早ばつ障害を回避したことに帰因するものと考えられる。陸稲栽培では早ばつを常に考慮しなければならないが、わが国の早ばつについて時期別発生頻度からみて、「ハタフサモチ」程度の熟期は中晩生種よりかなり有利なものと考えられる。

畑地かんがい栽培による収量を第9表に示したが、「農林糯26号」より多収を示し、糯品種のうちでは高い適応性を持っている。

第7表 穂発芽性検定試験成績

品 種 名	発芽率 (%)
ハタフサモチ	10
農林糯26号	30
農林糯1号	20
ハタコガネモチ	50

注 25°C定温器内3昼夜処理

第9表 畑灌栽培検定試験成績

品 種 名	試 験 年 次					
	1957	'58	'59	'60	'61	'62
ハタフサモチ	○ 113	□ 95	◎ 114	△ 111	○ 119	△ 104
農林糯26号	100	100	100	100	100	100

注 収量指数

IV 適 応 地 域

各配付先の収量指数を第10表に示したが、「ハタフサモチ」は関東各県では中晩生品種と同程度、もしくはそ

れ以上の成績をあげているが、特に南九州地方の早期栽培では極めて安定した多収性を示している。しかし暖地の標準栽培では晩生種より生育量が少なく、そのため収量もやや劣るようである。したがってこの品種は広い適

応性を持っているが、特に九州地方の早期栽培に適し、力の配分上利用価値の高い品種と考えられる。
 関東地方では標準栽培か早播栽培により耕地の利用や労

第10表 配布先成績一覧表

県名	試験地名	栽培法	試験年次							対象品種	
			1956	'57	'58	'59	'60	'61	'62		'63
鹿兒島	鹿屋	早期					○	○ 128	○ 142	◎ 129	農林糯 25号
"	"	早期多肥						○ 146	○ 127		" "
"	西之表	早期							◎	◎ 136	" "
"	指宿	"							◎ 186	◎ 130	" "
"	吹上	"							◎	○ 116	" "
"	川辺	"							○ 103	◎ 139	" "
"	溝辺	"							◎ 223	○ 101	" "
"	大隅	"							◎	◎ 125	" "
茨城	友部	標準					◎ 116	◎ 116			農林糯 26号
"	"	早播					◎ 107	◎ 126			" "
栃木	本場	標準	○ 105	○ 108	○ 102	○ 101	△ 99	△ 82	△ 102		" "
"	佐野	"				□ 101	△ 108	○ 111	△ 101		" "
"	"	畑灌				△ 97					" "
群馬	本場	標準	◎ 107	◎ 132	◎ 129	○ 102	△ 92	× 90			農林糯 4号
埼玉	玉井	"				○ 94	○ 110	○ 93	○ 111		農林糯 1号
"	"	早播					× 78				" "
"	入間川	標準				× 42	△ 97	○ 107	△ 97		" "
千葉	本場	早期	○ 116	× 86		△ 171	○ 209	× 77			" "
東京	本場	標準				△ 125	△ 100	× 99			ハタコガネモチ
神奈川	本場	"	○ 103	○ 106	○ 109	△ 125	△ 98	△ 110	△ 105		農林糯 26号
"	渋谷	畑灌	○ 113	□ 95	◎ 114	△ 111	○ 119				" "
"	相模原	標準				○ 125	△ 90	× 88			" "
"	"	畑灌				△ 107	○ 108	△ 126	△ 94	○ 123	" "
山梨	本場	標準	○ 149	× 89		△ 100	△ 97				農林糯 1号
静岡	本場	"	× 86	× 85							" "
愛知	豊橋	早期畑灌					◎ 110	◎ 145	◎ 122	○ 105	農林糯 3号
"	玉野	標準					△ 78	◎			農林糯 1号
三重	本場	"					○ 132	○ 128			" "
"	"	多肥					○ 170				" "
奈良		標準					△ 83	△ 80			" "
愛媛	久万	"					△ 91	□ 96			トサハタモチ
高知	山間	早期					○ 81	○ 90	○ 101	× 75	" "
育成地		標準	◎ 243	○ 111	◎ 119	○ 114	◎ 129	◎ 141	○ 202	△ 99	農林糯 26号

V 摘要

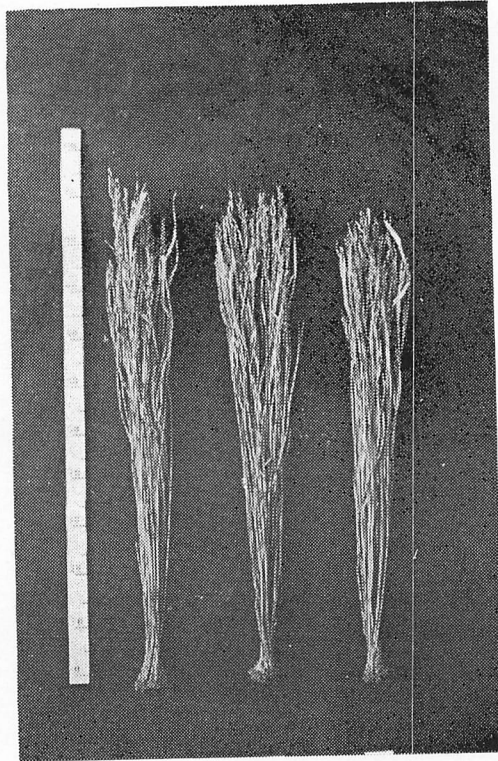
(1) 1951年に中生の強稈糯品種を育成するために「東

海33号」と「農材12号」の人工交配を行ない、以降系統育種法によって1964年に陸稲品種「ハタフサモチ」を育成した。

陸稲新品種「ハタフサモチ」について

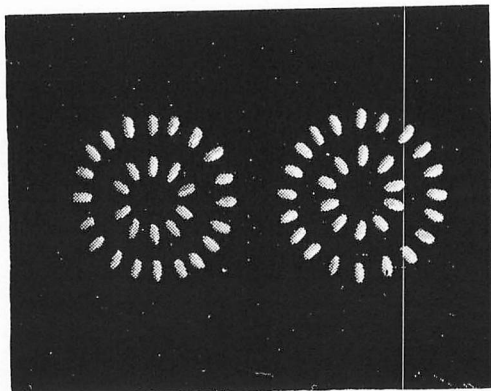
(2) 「ハタフサモチ」は「農林糯26号」よりやや早い中生糯種で、草型は中間型である。いもち病耐病性、耐旱性、倒伏性などには強いが、カラバエ耐虫性は中程度である。熟色、稔実ともに良好で、玄米品質ならびに餅質、食味ともに佳良である。収量は「農林糯26号」より高く、畑漕栽培でも安定した収量をあげる。

(3) 「ハタフサモチ」はその適応地域が広く、関東地方において利用される場合には標準栽培ならびに早播栽培用として耕地の利用、労力の配分などにおいて有利であるが、特に南九州地方の早期栽培用品種として優れた適応性をもっている。



母 父
 東海 農林
 33 12
 号 号

写真1 ハタフサモチとその両親の株



農林糯1号 ハタフサモチ

写真2 ハタフサモチの玄米

大豆新品種「コケシジロ」について

山木 鉄司・浅野 伸幸

I 緒 言

大豆関東42号は昭和39年、大豆新品種として「コケシジロ」と命名、大豆農林36号に登録の上、岩手県の奨励品種に編入され、一般に普及されることになった。

本品種の育成の経過、特性および適応地帯などにつきその概要を報告する。なお育成途上において地域的適応性および特性検定試験に御協力願った関係諸県の担当官各位に深謝する次第である。

II 来 歴

コケシジロは昭和25年、当時茨城県農業試験場石岡試験地（現在、育種部）において、「タマムスメ」を母とし、「胤莢」を父として人工交配を行ない、その後引続いて同試験地で選抜固定をはかり、昭和35年大豆関東42号の系統名をもって関係諸県にその種子を配布し、地域的適応性の検討を重ねた結果、新品種に登録されたものである。「コケシジロ」の名称は、東北地方に好適する、白臍良質の意をあらわしている。

本品種育成に直接従事した職員氏名と、その担当期間は第1表のとおりである。

第1表 育成従事者一覧

氏 名	担当期間
中村 迎（現茨城県農産園芸課）	昭25
石塚隆男（ ” 農業改良課）	” 25~37
山木鉄司	” 26~38
古厩留男（現茨城県農業改良課）	” ”
浅野伸幸	” 38

III 育 種 目 標

関東平坦地域における最も作付の広い大豆の在来品種は、いわゆる生娘であって、栃木生娘1号、生娘茨城1号、生娘77号等各地で色々の名称で作付されているが、そのいずれも形質はきわめて類似し、その特徴は安定した多収性と良質とである。当部における平坦地向大豆品種の育種目標は古くよりこの生娘に優る多収良質にあり、長期にわたり多数の交配組合せを抜ってきたが、これに優る品種としてはわずかに農林2号をあげうるにすぎない。しかし農林2号は生娘よりかなり晩生で、虫害

第2表 両親品種特性一覧表

品 種 名	開 花 期 月 日	成 熟 期 月 日	生育日数 日	花 色	莖 長 cm	分 枝 数	1 株 莢 数	百 粒 重 g	草 型
(母)タマムスメ	7.25	9.22	116	白	45	4.6	48	16.6	C
(父)胤 莢	7.29	9.28	121	紫	49	3.3	52	18.5	A ₂ ~D

品 種 名	莢 色	毛 茸 色	毛 茸 多 少	粒 色	粒 形	光 沢	臍 色	紫 斑 病 の 多 少
(母) タマムスメ	褐	白	稀	黄白	扁球	中	黄白	中
(父) 胤 莢	暗褐	白	中少	黄	球	微	淡褐	中

注 昭38 育種部成績

が多く、さらに臍色が黒く、いわゆる白臍種が要望される最近の流通事情からみて問題が残されている。そこで改めてこの生娘を対照に新しい組合せを企図したのであるが、具体的には生娘程度の早熟性と、これにまさる多収性を持ち、生娘の欠点である小粒と、褐臍を、大粒、白臍に改め、さらに密植多収栽培で徒長倒伏しやすい難点をなくすることを目標にしたもので、このため早熟

性、良質、耐倒伏性を備えた「タマムスメ」と、きわめて着莢の良い多収種「胤莢」とを母本に選んだ。

両親の特性を示すと第2表のとおりである。

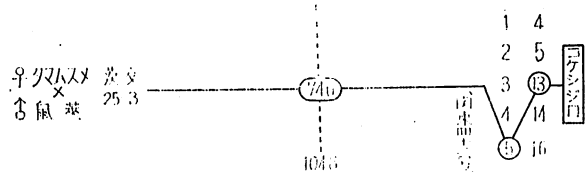
IV 育成経過

育成経過は第3表および第1図に示すとおりである。
交配(昭和25年)：114花を交配し、稔実莢数20次年

第3表 育成経過一覽表

年次	世代	供 試			選 抜		備 考
		系統群数	系統数	個体数	系統数	個体数	
昭和25年	支 配						
26年	F ₁			8			
27年	F ₂			1239		167	個体選抜 集団栽培
28年	F ₃			10000			"
29年	F ₄			5000			個体選抜
30年	F ₅			11000		1048	系統選抜
31年	F ₆		1048		134		生産力検定
32年	F ₇		134				"
33年	F ₈		134		32		"
34年	F ₉		32		9		"
35年	F ₁₀		9		4		"
36年	F ₁₁	4	12		4	20	" 系統栽培
37年	F ₁₂	4	20		4	20	" "
38年	F ₁₃	4	8		4		

年次	昭和25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
世代	上	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁	F ₁₂	F ₁₃



第1図 コケシジロの育成経過図

度種子として19粒を採種した。

F₁ (昭和26年)：前年の19粒中稔実不良のものを除いた10粒を播種し、うち自家受精と推定される2個体を除く8個体より1,239粒を採種した。

F₂ (昭和27年)：F₁ 採種全種子を播種した。この中晩生母本の胤莢より早熟で、粒大はタマムスメ以上、着莢性は胤莢以上の167個体を選抜した。

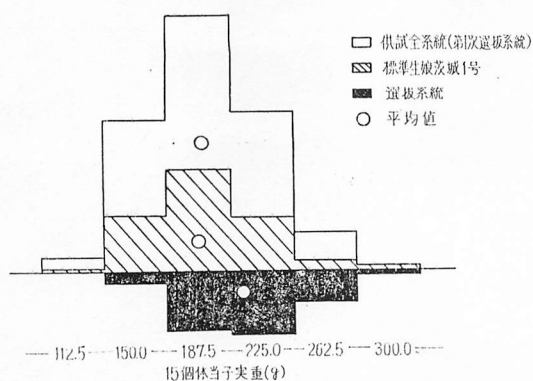
F₃~F₄ (昭和28~29年)：F₃ は前記167個体より

の全種子を、F₄はF₃集団の混合採種種子中より、任意に抽出した種子を用い、m²当り約50粒の割に密条播による集団栽培を行なった。それぞれの供用個体数はF₃で約10,000、F₄で約5,000に及んだ。

F₅ (昭和30年)：F₄混合採種中より任意抽出の種子を畦巾60cm、株間15cmの1本立にて11,000個体を栽植し個体選抜を行なった。選抜は生育中期に生育量が大きく、粒に紫斑発病少なく外観的品質のすぐれたものに限定し、生娘より、早熟なもの875個体、やや晩熟なもの173個体を選抜した。

F₆ (昭和31年)：前年度の選抜個体1,048を系統栽培に移した。1系統20個体とし、6区ごとに挿入した比較品種生娘および農林2号に比較して多収であることに重点をおき、さらに形質の分離が認められるもの、臍色の濃いもの、小粒のものを除いた134系統を選抜した。なお選抜系統は例年よりやや晩生にかたよる傾向が認められたが、生娘程度の早熟種は98系統で、残り36系統はこれより約10日晩熟であった。いま早生群全系統と、選

大豆新品種「コケシジロ」について



第2図 供試並選抜系統収量の分布(タマムスメ×汎莢) 早生群 (9月14日まで成熟)

抜系統について収量の分散を示すと第2図のとおりになり、後のコケシジロは早生群中の比較品種対比約108%の収量を示した。

F₇~F₁₀ (昭和32~35年) : 上記の選抜系統について生産力の検定試験を実施した。まず F₇ 世代はシスト線虫被害が激甚であったため単に全系統の採種のみにとどめ、F₈ に再び検定した。この結果早生群から27, 晩生群から5, 合計32系統が選抜されたが、本系統は早生群の中で比較品種生娘に対し155%に当る最高収量を示した。なお F₉ および F₁₀ 世代においても組合せを異にする多数系統を含む早生群中で2ヶ年とも最高の収量を示し、さらに昭和34年の栃木, 埼玉, 新潟3県の系統適応性検定試験においても同様配布早生系統中最高の収量で、安定した多収性をもつことが確認された。したがって、昭和35年より広く地域適応性を確かめるため、大豆関東42号と命名の上、関係諸県に種子の配布を開始した。また本系統には形質の分離は認められなかったが、F₁₁ 世代から系統栽培に編入した。

F₁₁~ (昭和36年~) : F₁₁以降F₁₃まで3ヶ年に

第4表 特性調査成績

品 種 名	草 型	花 色	毛茸多少	毛茸色	莢 色	粒 大	粒 形	粒 色	光 沢	臍 色
コケシジロ	A ₂	赤紫	多	白	暗褐	中中	扁球	黄白	中	白
生娘茨城1号	C	赤紫	少	白	淡褐	中小	扁球	黄	強	褐

注：昭38育種部成績

第5表 生育調査成績

品 種 名	試 験 年 次	開花期 月 日	成熟期 月 日	生 育 日 数 日	茎 長 cm	分枝数	主 節 茎 数	一 株 莢 数
コケシジロ	昭 33	7.20	9.16	118	78	3.4	—	63
	34	7.26	9.23	109	56	5.6	15.7	70
	35	7.18	9.12	115	71	3.3	16.2	52
	36	7.14	9. 7	119	78	2.7	17.0	51
	37	7.25	9.11	124	77	2.8	17.3	50
	38	7.15	9. 3	116	81	1.2	16.4	33
	平 均	7.20	9.12	117	74	3.2	16.5	53
生娘茨城1号	昭 33	7.18	9.15	117	77	4.3	—	62
	34	7.25	9.21	107	60	5.5	14.5	60
	35	7.15	9. 8	111	78	4.1	15.5	57
	36	7.12	9. 7	119	85	3.4	16.5	45
	37	7.16	9. 9	122	72	3.1	14.6	47
	38	7.11	9. 3	116	96	2.9	16.3	49
	平 均	7.16	9.11	115	78	3.9	15.5	53

注：昭38育種部成績 生産力検定試験

わたり、栽植条件等をかえて生産力の検定試験と系統栽培を重ねたが、一方関係各県においても検討が重ねられ、その多収性が注目されるに至り、とくに岩手県では多数の現地試験の検討も加えた結果、昭和39年より奨励品種に採用するところとなり、同年F₁₃において大豆農林36号と登録のうえ、コケシジロと命名された。

V 特性の要概

(1) 形態および生態的特性

コケシジロは比較的短茎で、分枝はやや少なく、またその開張度も小さく、草型はA₂に属する。花は赤紫色毛茸は白色密生し、成熟時の莢は暗褐色である。子実は早生種としてはやや大きい方で、生娘よりはかなり大きく、フクメジロ程度で、扁球形である。種皮はやや光沢の少ない黄白色で、臍色もこれと同じである。

関東地方では生娘よりわずかにおそい早生種中の中生で生態型はII_aに属する。しかし東北地方ではフクメジロよりもわずかに晩熟で、生態型はII_b型の生育を示

す。茎の伸長は小さい方で、密植等による徒長性や、蔓化性はきわめて少なく、また倒伏にも非常に強く、この点は生娘やフクメジロよりはるかに安定している。また晩播に対する適応性は高く、密植をとまなうことによつて、かなりの多収をあげることができる。しかし草型が堅実であるので早播多肥栽培にとくに適し、晩生種に劣らぬ高い収量性をもっている。

第6表 倒伏調査成績

品 種 名	昭 和 37 年		昭 和 38 年	
	晩播密植	晩播疎植	早 播	晩 播
コケシジロ	無	無	多	無
フクメジロ	中	中	甚	甚

注：育種部成績 昭37：6月下旬播種 m²35および25個体
昭38：5月上旬および6月下旬播種

第7表 特性検定試験成績

品 種 名	紫 斑 病			ウ イ ル ス 病				裂 莢 性	
				生育中罹病個体		褐 斑 粒			
	36 年	37 年	39 年	37 年	38 年	37 年	38 年		
コケシジロ	51.1	15.3	38.9	16.7	14.3	19.6	40.0	49	
フクメジロ	—	11.5	64.2	6.7	100.0	12.2	28.0	83	
シンメジロ	52.9	10.6	70.0	28.6	84.6	0.5	21.8	—	
農 林 2 号	9.2	1.2	—	—	—	—	—	28	
生娘茨城1号	31.2	3.1	33.3	—	—	—	—	—	

注：紫斑病：茨城農試育種部成績，散水法による紫斑粒数率
ウイルス病：山形農試成績，罹病個体数率および褐斑粒数率
裂莢性：昭38 茨城農試育種部成績，乾燥法による裂莢数率

(2) 特性検定試験成績

各地における特性検定試験成績は第7表のとおりである。まず紫斑耐病性は小さい方であり、生娘や農林2号に比較して明らかに劣るが、フクメジロよりはややまさる。

黒痘病には罹病性である。ウイルスにも罹病性であるが、フクメジロより発病率も、褐斑粒の発生も少ない。また成熟期に損失を招く裂莢については、フクメジロより明らかに耐性が大きくとくにこの点が岩手県において

注目されたところである。

(3) 子実収量成績

育成地における収量調査成績は第8～9表に示すとおりである。

すなわち標準栽培では6ケ年を通じ生娘より11%の多収をあげ、またその年次間の変異も小さく、安定している。なお2ケ年の成績にすぎないが、晩播および密植条件においてフクメジロより適応性が大きく、とくに耐倒伏性の大きいことが安定多収の原因となっているようで

大豆新品種「コケシジロ」について

第8表 収量調査成績

品 種 名	試 験 年 次	アール当全	アール当粒重	同 比 左 率
コケシジロ	昭33	51.6 ^{kg}	24.1 ^{kg}	155%
	34	45.6	26.6	127
	35	47.5	24.7	105
	36	66.6	30.6	107
	37	59.3	27.9	97
	38	53.0	25.3	99
	平均	53.9	26.5	111
生娘茨城1号	昭33	34.2	15.6	100
	34	38.7	20.9	100
	35	45.8	23.5	100
	36	62.4	28.6	100
	37	56.6	28.8	100
	38	53.7	25.6	100
	平均	48.6	23.8	100

注：育種部成績 生産力検定試験

第10表 品質調査成績

品 種 名	試 験 年 次	百粒重 ^g	品 質	紫斑病
コケシジロ	昭33	20.8	上中	微
	34	23.8	中上	微
	35	21.2	中中	少
	36	21.8	中上	微
	37	19.4	中下	微
	38	20.5	中中	少
	平均	21.3	中中～中上	微
生娘茨城1号	昭33	15.3	上中	微
	34	16.9	上中	少
	35	15.8	中上	微
	36	17.0	中上	少
	37	15.1	中上	無
	38	16.8	中下	中
	平均	16.2	中上	微～少

注：育種部成績 生産力検定試験

第9表 播種期と収量

品 種 名	昭 和 37 年		昭 和 38 年	
	晩播密植	晩播疎植	早 播	晩 播
コケシジロ	25.8 ^{kg}	24.5 ^{kg}	23.8 ^{kg}	18.8 ^{kg}
フクメジロ	22.0	23.2	18.5	18.1

注：育種部成績 第6表と同じ

第11表 子実の分析成績(乾物中)

品 種 名	産 地	粗蛋白質 [%]	粗 脂 肪 [%]
コケシジロ	石 岡	36.83	20.85
	岩 手	38.25	17.55
フクメジロ	石 岡	38.49	22.53
	岩 手	40.23	18.23

注：北海道農試作物第6研究室分析

ある。

(4) 品 質

育成地における品質調査成績は第10表のとおりである。

育成地においては、種皮色は黄白で外観はきわめて美しく、種皮にくすみや亀裂等の障害は全く認められず、とくに良質とされる生娘に比較してほとんど劣るところがない。また粒は生娘よりかなり大きく、紫斑病も生娘よりはやや少なく、いわゆる白臍良質種として、味噌、豆腐のいずれにも好適するものと思われる。

成分的には蛋白および脂肪のいずれもほぼ中位であって、フクメジロとの比較では蛋白含量においてやや低く、脂肪含量においてやや高い。分析結果を示すと第11表のとおりである。

VI 適 応 地 帯

コケシジロの奨励品種採用県の成績は第12表および第3図のとおりである。

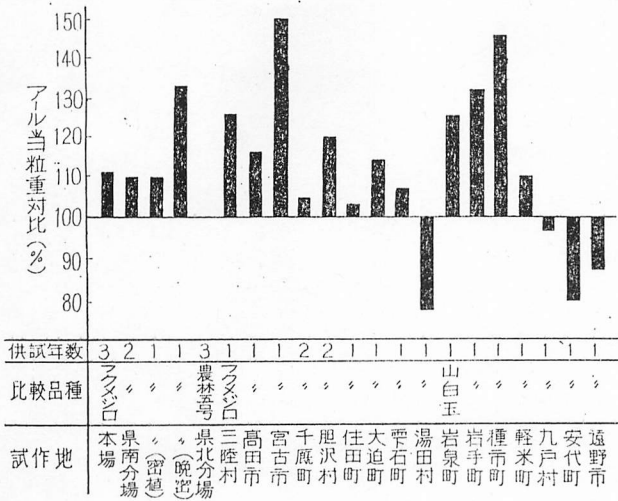
岩手県では一般にフクメジロよりわずかに晩生であるが山白玉より約1週間早熟で、収量はフクメジロより各地とも著しく多収であり、山白玉に対してもかなり多収の地点が多い。しかし寒冷地帯の一部ではこの両品種より収量は劣り、適応性がやや小さいことを示している。

子実はやや小さく、外観の品質ではやや劣るが、フクメジロとは同程度である。しかしコケシジロは褐斑粒の発生や裂莢性が少なく、安定多収であって、褐斑粒被害の大きい山白玉、収穫時の旱天による裂莢の多

第12表 岩手県試作成績

試験地名	栽培条件	品 種 名	開花期 月 日	成熟期 月 日	茎 長 cm	一 莖 株 数	アール 当粒重 kg	同 比	左 率 %	百粒重 g	紫斑病	品 質	試験年次
岩手本場	標 準	コケシジロ	8. 2	10. 3	60	68	18.8	111	24.9	2.9	上下一中上	昭36~38 "	
		フクメジロ	7.31	9.30	80	41	16.9	100	24.1	1.3	上下一中上		
	標 準	コケシジロ	8. 3	10. 3	63	61	20.2	107	23.9	4.1	上下一中上	昭36~38 "	
		フクメジロ	8. 1	10. 2	86	38	18.9	100	25.5	1.0	中上		
県南分場	標 準	山 白 玉	8. 4	10.16	75	36	17.7	94	31.6	6.8	中	"	
		コケシジロ	8. 4	10. 8	69	129	25.5	110	25.9	ム	中下一中中		
	密 植	フクメジロ	8. 3	10. 5	71	90	23.2	100	27.4	ム一ビ	上下一中下	昭37~38 "	
		コケシジロ	8. 5	10.10	86	93	32.4	110	27.6	ビム	中中		
	晩播密植	フクメジロ	8. 3	10. 7	87	85	29.5	100	27.9	ビム	中中	昭38 "	
		コケシジロ	8.14	10.15	64	101	34.8	132	25.0	ビム	中中		
県北分場	標 準	フクメジロ	8.11	10.14	70	60	26.4	100	25.5	ビム	中中	昭38 "	
		コケシジロ	8. 4	10. 8	89	50	22.6	90	25.1	一	中		
		農林5号	7.31	10. 6	108	39	22.8	100	29.1	一	中中		
三陸村	標 準	山 白 玉	8. 4	10.16	88	45	27.5	120	31.4	一	中上	昭36~38 "	
		コケシジロ	8.12	10. 4	63	29	18.2	125	—	ムム	中中		
		フクメジロ	8.11	9.30	71	33	14.6	100	—	ムム	中中		
高田市	標 準	コケシジロ	—	10.17	63	27	15.8	116	—	少	一	昭38 "	
		フクメジロ	—	10.16	70	31	13.6	100	—	少一ビ	一		
宮古市	標 準	コケシジロ	7.25	10. 3	63	62	45.2	149	—	ム少	上中	昭38 "	
		フクメジロ	8. 1	10. 8	69	74	30.2	100	—	ム少	上中		
千厩町	標 準	コケシジロ	8. 5	10.14	48	57	25.3	104	—	少	上中一中下	昭37~38 "	
		フクメジロ	8. 5	9.30	56	59	24.4	100	—	少	上中一中上		
胆沢村	標 準	コケシジロ	8. 4	10.11	65	50	21.2	120	—	中	中上一中下	昭38 "	
		フクメジロ	8. 2	10. 5	67	51	17.7	100	—	少一中	上中		
住田町	標 準	コケシジロ	8.17	10. 6	69	53	25.4	103	—	ム	一	昭38 "	
		フクメジロ	8.16	10. 3	68	58	23.7	100	—	少	一		
大迫町	標 準	コケシジロ	8. 3	10. 8	68	97	22.0	114	—	ム	中中	昭38 "	
		フクメジロ	8. 3	10.15	74	69	19.3	100	—	ム	中中		
雫石町	標 準	コケシジロ	8. 2	10.16	75	44	22.4	107	—	一	中中	昭38 "	
		フクメジロ	7.31	10.25	88	33	21.0	100	—	一	中中		
湯田村	標 準	コケシジロ	8. 5	10. 3	39	25	7.3	77	—	一	一	昭38 "	
		フクメジロ	8. 4	10. 8	46	24	9.5	100	—	一	一		
岩泉町	標 準	コケシジロ	8.12	10.18	72	33	22.7	123	—	少	一	昭38 "	
		山 白 玉	8.14	10.19	78	41	18.5	100	—	少	一		
岩手町	標 準	コケシジロ	8.11	10.10	69	73	24.4	131	—	0.9	中中	昭38 "	
		山 白 玉	8.11	10.10	70	61	18.6	100	—	—	中中		
種市町	標 準	コケシジロ	8.10	10. 4	48	42	21.7	145	—	ム	中上	昭38 "	
		山 白 玉	8.10	10.16	62	35	15.0	100	—	ム	中上		
軽米町	標 準	コケシジロ	8. 9	10.19	89	26	11.9	110	—	一	中	昭38 "	
		山 白 玉	8.12	10.14	84	31	10.8	100	—	一	中		
九戸村	標 準	コケシジロ	8. 2	10. 3	79	55	21.5	96	—	ム	中上	昭38 "	
		フクメジロ	8. 4	10. 5	69	61	22.4	100	—	ム	中上		
安代町	標 準	コケシジロ	8. 4	10. 9	74	32	18.7	79	—	ビム	中上	昭38 "	
		フクメジロ	8.10	10.15	86	41	23.7	100	—	ビム	中中		
遠野市	標 準	コケシジロ	8. 4	10. 3	79	42	27.6	86	—	ム	中上	昭38 "	
		フクメジロ	8. 3	10.16	78	35	32.1	100	—	ムビ	上		

大豆新品種「コケシジロ」について



第3図 岩手県内試作成績

いフクメジロに対してはるかにすぐれ、さらに倒伏、蔓化性などの障害が両品種より少ないことが注目されたものであって、フクメジロに代えて県中部以南の温暖地帯に普及を見込み、その面積は約6,000haと予想されている。

次に岩手県を除く東北各県および関東地方の成績は第13~14表および第4~5図に示すとおりである。

まず東北地方では中生種として、陽月1号、奥羽13号ウゴダイズ、フクメジロ等に対しておおむね各地とも安定した多収を示し、さらにこれらの品種と比較してやや大粒で、白臍であることから品質的にもまさっている。

また関東地方でも平坦地向品種として、生娘や、やや晩生の農林2号に比較して各地とも安定して多収で、とくに多肥条件あるいは生産力の高い土地条件において多収性が発揮されている。また晩播において、最も適応性

第13表 東北地方試作成績

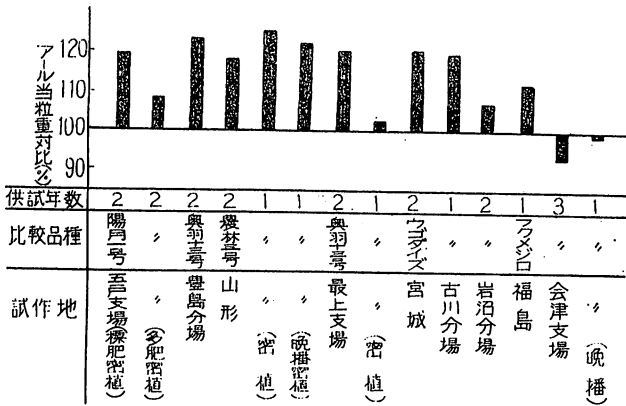
試験地名	栽培条件	品種名	開花期 月日	成熟期 月日	茎長 cm	一株 莢数	アール 当粒重 kg	同 比	左 率 %	百粒重 g	紫斑病 %	品質	試験年次
青森五戸支場	標肥密植	コケシジロ	8.4	10.8	57	—	22.9	119	22.8	—	中上	昭37~38	
		陽月1号	7.31	10.5	54	—	19.2	100	22.5	—	中	昭37~38	
	多肥密植	コケシジロ	8.3	10.8	64	—	21.0	108	22.7	—	中上	昭37~38	
秋田豊島分場	標 準	コケシジロ	8.4	10.4	62	—	28.6	123	24.0	5.2	中上	昭37~38	
		奥羽13号	8.4	10.5	81	—	23.2	100	23.0	1.9	中中	昭37~38	
山形本場	標 準	コケシジロ	7.27	9.24	79	128	28.3	118	24.5	—	中中	昭37~38	
		農林3号	7.24	9.23	80	93	23.9	100	21.0	—	中下—中上	昭37~38	
	密 植	コケシジロ	8.2	9.18	88	54	19.6	125	20.7	—	中下	昭37	
		農林3号	8.1	9.21	84	67	15.7	100	20.7	—	下	昭37	
晩播密植	コケシジロ	8.11	9.28	88	31	27.0	122	24.2	—	中上	昭38		
	農林3号	8.12	10.3	91	27	22.1	100	20.4	—	下上	昭38		
山形最上分場	標 準	コケシジロ	7.29	9.29	63	—	29.4	120	27.0	少—中	中下—上中	昭37~38	
		奥羽13号	7.30	9.30	83	—	24.4	100	23.9	ム—少	中下—中上	昭37~38	
密 植	コケシジロ	7.29	9.30	69	88	33.3	102	27.8	少	—	昭38		
	奥羽13号	7.31	10.2	94	76	32.6	100	25.0	少	中上	昭38		
宮城本場	標 準	コケシジロ	8.5	10.4	66	92	29.0	120	23.1	ム—極少	上下一上中	昭37~38	
		ウゴダイズ	8.6	10.6	85	73	24.1	100	23.7	—	上—下	昭37~38	
宮城古川分場	標 準	コケシジロ	8.2	10.1	41	42	28.6	119	24.1	少	中上	昭37	
		ウゴダイズ	7.30	9.26	53	39	24.1	100	23.8	少	中中	昭37	
宮城岩沼分場	標 準	コケシジロ	8.13	10.13	57	48	18.0	107	25.4	ビー少	中上	昭37~38	
		ウゴダイズ	8.14	10.13	65	39	16.8	100	25.3	ビー少	中	昭37~38	
福島本場	標 準	コケシジロ	7.29	10.4	51	—	24.2	112	26.3	少	上中	昭38	
		フクメジロ	7.28	10.4	65	—	21.6	100	28.8	少	中中	昭38	
福島会津支場	標 準	コケシジロ	8.1	9.29	47	61	26.2	93	25.8	11.2	中中	昭35.37~38	
		フクメジロ	8.1	9.28	69	57	28.1	100	27.4	7.2	中上	昭35.37~38	
	晩 播	コケシジロ	8.11	10.5	54	45	22.3	99	25.3	—	—	昭35	
		フクメジロ	8.9	9.30	66	26	22.5	100	26.4	—	—	昭35	

第14表 関東地方試作成績

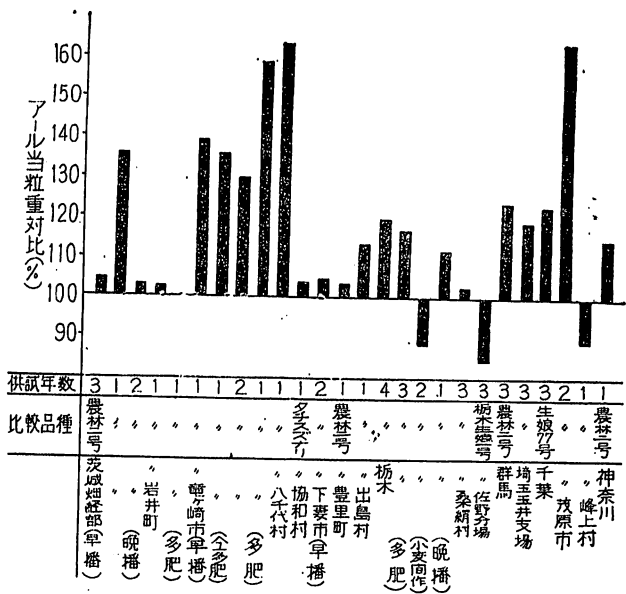
試験地名	栽培条件	品種名	開花期 月日	成熟期 月日	茎長 cm	一株 莢数	アール 当粒重 kg	同 比	左 率 %	百粒重 g	紫斑病 %	品 質	試験年次
茨城 畑作経営部	早播	コケシジロ 農林2号	7.13 7.16	9.15 9.19	70 62	63 53	33.1 31.8	104 100	22.9 24.8	少 ビ	上 上	下 中	昭36~38 "
		コケシジロ 農林2号	7.23 7.24	9.18 9.23	45 50	71 44	30.2 22.4	135 100	20.3 19.9	ビ ム	上 上	中 中	昭 "
	晚播	コケシジロ 農林2号	8.5 8.5	9.26 10.2	58 59	41 39	22.6 22.1	102 100	22.5 22.3	少中一多 ム一ビ	中 中	上 上	昭37~38 "
		コケシジロ 農林2号	7.8 7.17	9.12 9.21	62 70	98 97	27.0 26.6	102 100	— —	ム ビ	上 上	中 中	昭 "
茨城岩井町	多肥	コケシジロ 農林2号	7.8 7.17	9.14 9.23	74 66	113 99	24.2 24.2	100 100	— —	ム ビ	上 上	中 中	昭 "
		コケシジロ 農林2号	7.11 7.6	9.11 9.16	45 45	74 74	35.1 25.2	139 100	21.4 21.3	ビ 少	上 中	下 上	昭 "
茨城竜ヶ崎市	早播多肥	コケシジロ 農林2号	7.11 7.6	9.11 9.16	45 45	74 74	35.1 25.2	139 100	21.4 21.3	ビ 少	上 中	下 上	昭 "
		コケシジロ 農林2号	7.11 7.6	9.11 9.16	45 48	65 73	30.4 22.5	135 100	— —	ビ 少	上 中	下 上	昭 "
	標準	コケシジロ 農林2号	7.19 7.17	9.14 9.19	55 51	54 56	29.3 22.8	129 100	— —	ビ 少	中 中	上 上	昭36~37 "
		コケシジロ 農林2号	7.15 7.14	9.12 9.18	53 56	76 71	36.2 22.9	158 100	— —	ビ 少	上 中	下 上	昭 "
茨城八千代村	標準	コケシジロ 農林2号	— —	9.13 9.18	53 63	141 89	37.2 22.8	163 100	20.0 20.2	少 ビ	中 上	上 中	昭 "
		コケシジロ タチスズナリ	7.26 7.26	9.24 9.30	48 53	120 123	33.6 32.5	103 100	19.4 16.9	ビ ビ	上 上	下 下	昭 "
茨城下妻市	早播	コケシジロ タチスズナリ	7.6 7.10	9.10 9.24	77 80	69 106	39.6 38.1	104 100	24.4 21.7	少 ビ	中 上	上 下	昭37~38 "
茨城豊里町	標準	コケシジロ 農林2号	7.25 7.23	9.21 9.28	88 78	54 46	29.0 28.2	103 100	23.8 25.3	少 ビ	上 上	下 中	昭 "
		コケシジロ 農林2号	7.10 7.13	9.20 9.24	53 53	66 49	25.8 22.8	113 100	21.2 23.3	ビ ビ	上 上	中 中	昭 "
栃木木場	標準	コケシジロ 農林2号	7.22 7.20	9.17 9.19	51 53	76 61	26.4 22.2	119 100	21.7 21.4	少 ビ	中 中	中 上	昭35~38 "
		コケシジロ 農林2号	7.21 7.20	9.18 9.18	44 45	104 76	26.0 22.3	117 100	22.1 22.3	少 ビ	中 中	上 上	昭36~38 "
	小麦間作	コケシジロ 農林2号	7.29 7.28	9.20 9.20	51 51	58 52	16.3 18.5	88 100	15.6 17.1	ビ 少	中 中	中 上	昭36~37 "
		コケシジロ 農林2号	7.27 7.27	9.23 9.22	43 50	50 49	17.8 16.1	111 100	19.2 18.4	ビ ム	中 中	上 上	昭 "
栃木桑絹村	標準	コケシジロ 農林2号	7.23 7.24	9.17 9.21	51 55	— —	18.2 17.8	102 100	17.6 23.1	少 少	中 中	中 上	昭36~38 "
		コケシジロ 栃木生娘1号	7.19 7.17	9.14 9.11	61 63	78 83	19.3 22.7	85 100	18.3 14.9	ビ 少	中 中	中 中	昭35~37 "
群馬木場	標準	コケシジロ 農林2号	7.28 7.26	10.2 10.1	36 36	85 67	16.2 13.2	123 100	20.7 20.5	少 ビ	上 中	下 上	昭35~37 "
		コケシジロ 農林2号	7.22 7.20	9.22 9.25	58 59	75 73	21.3 18.0	118 100	21.0 20.8	ビ ビ	中 中	上 上	昭35~37 "
千葉木場	標準	コケシジロ 生娘77号	7.17 7.13	9.13 9.5	58 57	115 112	24.9 20.5	122 100	21.9 15.9	ム ム	中 中	上 中	昭35~37 "
		コケシジロ 生娘77号	7.20 7.17	9.19 9.14	53 58	— —	18.8 11.5	164 100	24.1 18.0	少 少	中 中	下 中	昭36~37 "

大豆新品種「コケシジロ」について

試験地名	栽培条件	品種名	開花期 月日	成熟期 月日	茎長 cm	一株 莢数	アール当 粒重 kg	同 比	左 率 %	百粒重 g	紫斑病	品質	試験年次
千葉 峰上村	標準	コケシジロ 生娘77号	7.19	9.20	46	—	7.1	89	17.4	少ム	下	昭 36	
			7.14	9.10	45	—	8.0	100	18.5				
神奈川 本場	標準	コケシジロ 農林2号	7.22	9.16	48	92	29.9	114	22.1	少少 ビ	中 下 中	昭 37	
			7.21	9.18	46	79	26.2	100	22.9				



第4図 東北地方試作成績



第5図 関東地方試作成績

の大きいと考えられる農林2号にも多収性において劣らない。なお紫斑耐病性にやや難点が残るが、品質的におおむね農林2号や生娘より上位といえる。

Ⅶ 適地および栽培上の注意

関東地方平坦地における早生種として、早期および晩期栽培用に、また東北地方では中生種として一部寒冷地

を除く全域に好適する。とくに茎の伸長が比較的小さく、倒伏に強いので、生育が旺盛となる肥沃地や多肥条件に好適し、またかなりの密植多収栽培や、密植による晩播多収栽培にも好適である。この反面地力の低い土地や、東北寒冷地ではとくに密植条件でなければ多収性を発揮し得ない。なお密植の基準としては平方メートル当り約25株がよく、極端な密植ではべと病が発生しやすくとくに暖地ではこのおそれが大きい。なお紫斑病には弱いから例年成熟期に長雨の懸念のある地方では嫩莢期に銅粉剤の散布を実施すると安全であり、とくに関東平坦地方における早播栽培では注意を必要とする。

Ⅷ 摘 要

コケシジロはタマムスメを母とし、胤莢を父として交配し後集団育種によって育成を続け、昭和39年大豆農林36号に登録の上、岩手県の奨励品種に採用されたもので特性その他は次のとおりである。

(1) 関東地方では生娘を対照とする早生種、東北地方ではフクメジロを対照とする中生種であり、花は紫色、毛茸は暗褐色で、比較的短茎である。

(2) 紫斑病、べと病にやや弱く、黒とう病には罹病性であるが、ウイルス病には比較的強く、褐斑の発生は少なく、また成熟時の裂莢による粒の損失も少ない。

(3) 広く各地域で多収であり、かなりの密植・晩播条件にも適応するが、多肥等の繁茂の大きい場合にとくに多収が得られる。この反面、瘠薄地、寒冷地には適しない。

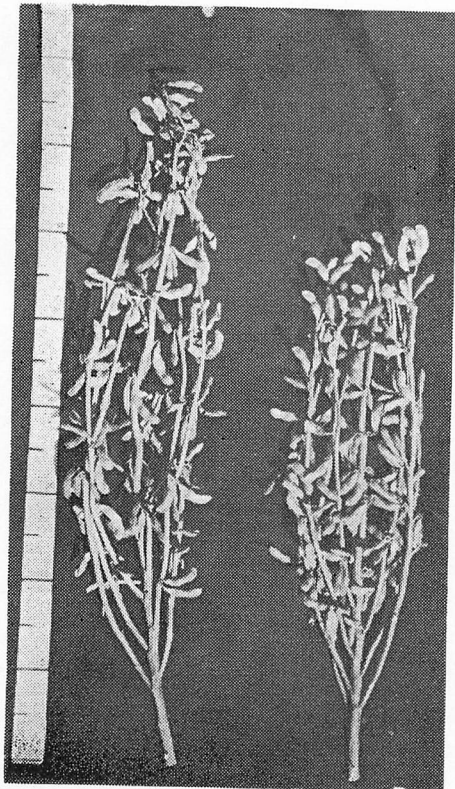
(4) 子実はやや扁球、黄白色で、早生種のわりに大粒白臍で、外観がきわめて美しく販売用に適する。蛋白および脂肪含量は中位である。

(5) 関東地方平坦地および東北地方一円に適し、とくに肥沃地ではきわめて多収が期待される。なおかなりの密植栽培に耐えるので、今後の機械化密植栽培に適する多収品種としての利用にも適すると思われる。

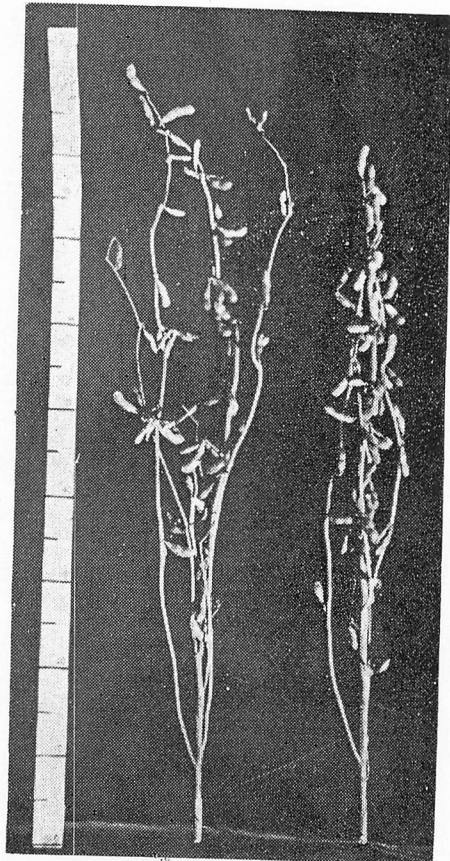
大豆新品種「コケシジロ」

標準栽培

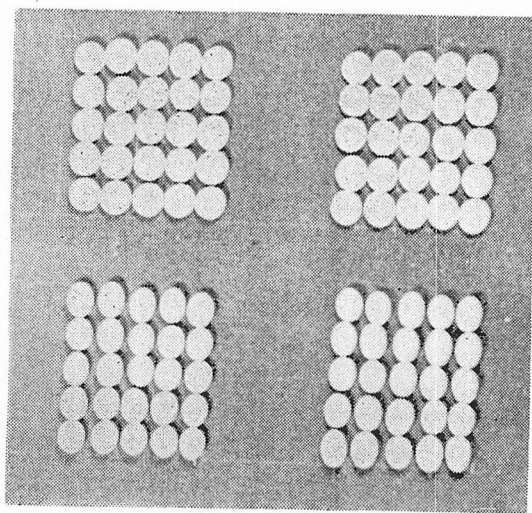
密植栽培



(比較) フクメジロ コケシジロ



(比較) フクメジロ コケシジロ



(比較) フクメジロ

コケシジロ